

2 レミントンの女の死

- 女は二階の寝室で死んでいた
レミントンスパーの町の上空から
たそがれ時の星明かりが
窓ガラス越しに差し込んでいた
- 女のそばには かぎ針の編み物が 5
ひっそりと 投げ出されていた
口から出る言葉が消えたと同様に
仕上げるはずだった指の動きが消えていた
- 家政婦がティーセットを胸元まで高く掲げて
テーブルと椅子の間を縫うように入ってくる 10
しかし 家政婦は自分の小さな魂に気を取られ
家具類も 住人には無関心
- 家政婦は大きな丸窓を閉め
ブラインドを降ろす
マッチで暖炉の火種をつけて 15
石炭を焼べる
- 家政婦は小声で 「お茶です
起きてください もうすぐ5時になります」
ああ 安っぽい 取り繕った声の明るさ
半ば死んでるような 半ば生きてるような 20
- 壁の漆喰が段々とはげ落ちていることにも
人間の心臓がいつかは止まることにも
あの黄ばんだイタリア式のアーチ門の
石膏がはげ落ちている音にも お前さんは気付かない
- 家政婦は静かなベッドを見つめる 25

灰色の朽ちゆく顔を見つめる
レミントンのたそがれ時の沈黙が
部屋に流れ込む

家政婦は酒瓶の載ったテーブルを
ベッドの脇から壁際に移し
そっと忍び足で階段を降り
居間のガス灯の灯りを落した

30

(山中光義訳)